

【国税庁長官賞】

「ピンクのガーベラ」

魚津市立西部中学校三年 三田 ちさと

税金というと皆さんは何を思い浮かべるだろうか。中学生の私が一番関わっている税金と言えば消費税ではないだろうか。私が生まれた時の消費税の税率は三%。平成二十五年に八%になり、令和元年には十%に引き上げられた。少ないお小遣いをやりくりしている私はこの十%の消費税を不満に思っていた。

五年前、曾祖母が九十六才で亡くなった。

民宿を営んでいた曾祖母はいつも笑顔で優しかった。店を畳んでからは一人暮らしをしており、月に数回祖父母が会いに行っていた。玄関先でつまづき大腿骨を骨折してからは思う様に歩けなくなり、週に数回ヘルパーさんに身の回りのお世話をさせていただいていたが体調不良で自宅で倒れていたのをヘルパーさんが発見し救急車で運ばれてからは一人での生活も困難となり、施設へ入居する事となる。

施設での様子は月に一度祖父母の家に写真と手紙が送られてきており、その元気そうな曾祖母の写真を見ながらたくさんのお話を聞くのが楽しかった。また会いたい。会いに行きたかったと思っていたのに…。

コロナウイルスの大流行で面会できない日々が続いた。しばらくして施設から「亡くなりました。」と電話で連絡が来たそうだ。祖父母も曾祖母の最期を看取る事が出来なかった。

葬儀の後、祖父がぽつりと「最後は看取れなかっただけれど、施設では毎日とても楽しそうでのんびり生活が出来て良かった。税金のおかげだ。本当にありがたかった。」と言った。

私は、「税金・使い道」を調べてみた。

曾祖母がお世話になったヘルパーさんも、病院へ運んでいただいた救急車も、施設への入居も、税金の一部が使われている事を知った。私が支払っている消費税も介護などの社会保障に使われていた。私が不満に思いながら支払っていた消費税が少しでも曾祖母の為になっていたと思うと、胸が熱くなりそして誇らしく思えた。

この作文を書くにあたり、私は祖父に、曾祖母の事を書いてもよいかと相談をした。すると祖父は、「おばあちゃんはきっと喜ぶと思うよ。一緒にお墓参りに行って報告しよう。」と提案してくれた。

お墓参りに行く途中に花屋に寄ってもらった。税金について調べるきっかけを与え、消費税に対する気持ちを変えてくれた曾祖母へ「感謝」「前向き」「思いやり」が花言葉であるピンクのガーベラをお小遣いで買い、供えた。

税金は教科書や学校の机、椅子など私達の身近な所にも沢山使われている。その事を知れば税金に対する気持ちがもっと前向きになるだろう。

税金の使い道を知った私は、消費税に対する不満はない。誰かの役に立ち、沢山の笑顔が増えると良いなと思っている。